

詩編 37 : 1~22

マタイによる福音書 5 : 5

「柔和な人々は幸い」

【招詞】 ヨハネによる福音書 4 : 23~24

【讚美歌】 24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】 詩編 51 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 6 「つくりぬしを賛美します」

【祈祷】

天におられる、わたしたちの父なる神さま、御名を賛美いたします。

今朝も、わたしたちに新しい命、新しい朝、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださったことを、心から感謝いたします。

これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの恵みの御心を、深く悟ることが出来るよう導いて下さい。この礼拝の中心に、生きておられる復活のイエスさまがいて下さり、豊かな交わりに与かって、わたしたちの信仰がますます力強く励まされますように。そして、聖霊によって新しくされ、今日から歩み出す一週間を、神さまの御心に従って歩む者とならせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】 詩編 37 : 1~22、マタイによる福音書 5 : 5

【説教】 「柔和な人々は幸い」

<柔和とは>

イエスさまの「山上の説教」から、一節ずつ御言葉を聞いています。今日は、「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ」という御言葉です。

柔和な人々は幸い。「柔和」とは、やわらかく、なごむ、という字ですけれども、穏やかで、優しいこと。友好的である、寛容である、というような意味です。

反対に、「柔和」に対抗する言葉は、荒々しいこと、激しさ、怒り、攻撃、闘争心などです。暴力的な力の強さで、相対することです。

そのような、暴力的な、怒りや、闘争心に溢れた人々ではなく、柔和な人々は、幸いである。その人たちは地を受け継ぐ。そう、イエスさまは言われました。

でも、わたしたちが見つめている、この世の現実には、まったく反対のように思えます。

わたしたちの世界では、暴力的な、攻撃的な強さを持つ者が、力づくで、この世の地を支配し、手に入れているのではないのでしょうか。

この地では、柔和な人々が。暴力に頼らない、優しい穏やかな人々が。自分の思いのまま振舞う者たちに、力づくで奪われ、打ち倒され、損をさせられている。何かを受け継ぐどころか、取り上げられ、居場所を失っている。小さくされて、忍耐を強いられている。不幸な目に遭い、辛い思いをしている。それが、現実なのではないのでしょうか。

しかし、イエスさまは宣言なさいます。

「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ」。

そして、わたしたちは、イエスさまこそ、まず、その柔和な人々の先頭に立って歩まれた方であったことを、知らされるのです。

<柔和なお方>

イエスさまこそ、まことに「柔和」なお方です。

この「柔和」という言葉は、四つの福音書中では、あと二回しか出てきません。どちらもマタイによる福音書なのですが、一つは11：28～30のところですか。こうあります。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

もう一か所は、マタイによる福音書 21：5 です。これは、イエスさまが十字架にお架かりになるために、ろばに乗って、エルサレムに入ってこられる時の場面です。

「シオンの娘に告げよ。『見よ、お前の王がお前のところにおいでになる、／柔和な方で、ろばに乗り、／荷を負うろばの子、子ろばに乗って。』」

「柔和」は、イエスさまがどのようなお方かを現わす言葉の一つです。

イエスさまは、御自分のことを「わたしは柔和で謙遜な者」である、と言われました。

また聖書は、イエスさまが、わたしたちの「柔和な王」として、来られた、ということをお告げしています。

まことの人となられた、神の御子イエスさまこそ。力づくではなくて。怒りや暴力によるのではなくて。優しさと穏やかさ、寛容と赦しをもって、柔和に、この地上を歩まれたお方なのです。

しかし、その結果、イエスさまはどうなられたのでしょうか。柔和に歩み続けられたイエスさまは、人々から憎しみと、怒りと、暴力を向けられたのです。

イエスさまは、神さまの御心に背く人々によって、また弟子たちによって、裏切られ、引き渡され、見捨てられました。人々は、柔和なこのお方を、暴力の極みである十字架につけて、「殺せ、殺せ」と叫び、イエスさまを殺しました。

柔和なお方であるイエスさまは、人々に、力づくですべてを奪われたのです。身に着けた衣も剥ぎ取られ、地を受け継ぐどころか、この地から居場所を、命を、奪われたのです。

ある人は、イエスさまはその柔和さのゆえに、地を受け継ぐどころか、この方からは、すべての地が取り去られた。イエスさまには、この地に枕するところもなかったし（8：20）、最後に葬られたお墓でさえ、他人の土地であったのだ、と指摘しています。

しかし、イエスさまは、柔和な歩みを貫き通されました。ご自分の思いを主張し、力づくで、何かを成し遂げたりなさることはなく。父なる神さまに、従順に従われ、すべてを受け入れ、すべてを耐え忍び、すべての者を赦されたのです。

イエスさまは、ご自分に敵対する者に、怒りをぶついたり、憎しみを抱いたり、いっそ滅ぼしてやろう、などと思ったりはなさいませんでした。

むしろイエスさまは、ご自分を責め立て、迫害し、暴力を振るうそれらの者たちが、悔い改めて、正しい道に立ち帰るように。神さまを愛し、隣人を自分のように愛する道を歩むことが出来るようにと、願われたのです。

そして、そのことが実現するために、敵対する者たちの罪を、代わりにすべて、ご自分のその身に担われたのです。

…そして、その敵対する者とは、まさに、神さまに背く、わたしたちのことなのです。

わたしたちこそ、自分の思い通りに生きたい。自分の平和だけを守りたい。自分の願いを叶えたい。そう望んで、自分の思いを、力づくで貫こうとし、従うべき神さまに背き、イエスさまに敵対し、柔和なお方を十字架につけた、張本人なのです。

わたしたちは、神さまの激しい怒りを受け、滅ぼされてもおかしくないほど、酷い、深刻な罪を犯したのです。

でも、神さまは、わたしたちを滅ぼすことを、御心とはなさいませんでした。

だからこそ、神さまの御心に従われた御子イエスさまは、むしろ、ご自分の力を徹底的にお捨てになって、わたしたちの罪と敵意をすべて受け止め、愛をもって、赦しをもって、わたしたちを生かそうとしてくださいました。

そのために、わたしたちの罪をすべてご自分の背に担って、御自分の命さえも捨てて、苦しみと十字架の死を、黙って受け入れてくださいましたのです。

この、イエスさまの、まことの柔和さのゆえに、わたしたちは罪を赦されたのです。

このイエスさまの柔和さのゆえに、わたしたちは救われたのです。

<復活>

ですから、イエスさまの柔和さは、ただの弱さではありません。むしろ、受け入れる力、耐え忍ぶ力、暴力や怒りに打ち勝つ、愛の力なのです。

柔和は、暴力への敗北ではありません。暴力が、人を押さえつけるような力が、地を支配するものではありません。

そのような力は、一見すべてを手中に収めているように見えても、永遠に続くことはありませんし。最後には、人も自分もすべてを傷つけ、滅ぼしてしまう、破壊的な力です。

しかし、柔和なお方である、神の御子イエスさまは、愛の力を振るわれます。

イエスさまは、力づくで敵を一掃し、滅ぼし尽くして、奪うことで、そのご支配を打ち立てるようなお方ではありません。そうであれば、わたしたちも、とうに命を奪われ、滅ぼされていたはずです。

でもこの方は、「柔和な王」として来られたのです。神の御子イエスさまは、愛と、忍耐と、赦しをもって、わたしたちを支配してくださる。わたしたちから奪い取るのではなく、むしろ、ご自分のすべてをわたしたちに与えることによって、支配してくださるのです。

ですから、そのことを明らかに示してくださるために、十字架で死なれたイエスさまを、父なる神さまは、死者の中から復活させられました。

神さまの御力は、もちろんすべてを滅ぼすこともお出来になるでしょうけれども、そうではなくて、罪の贖いを成し遂げられたイエスさまをよみがえらせ、わたしたちに新しい命を与えることにこそ、その御力を用いてくださるのです。

父なる神さまの御心に従い抜き、柔和な歩みを貫き通されたイエスさまは、死者の中から復活し、わたしたちを支配していた罪と死に、勝利してくださいました。

そして、父なる神さまは、復活なされたイエスさまを天に上げ、ご自分の右におき、この方に、天と地を治める、すべての権能をお授けになったのです。

「柔和な人は、…地を受け継ぐ。」

「地」とは、神さまから民に与えられ、また父から子へと相続される土地の権利と祝福のことです。ここにおいては、神のご支配の力と、すべての祝福のことと言えるでしょう。

まさに、柔和なお方。徹底的に謙遜に、十字架に至るまでへりくだって歩まれたイエスさまは、復活して、地を受け継がれたのです。

イエスさまは、命も、死も、見えるものも、見えないものも、天も、地も、すべてのものを支配なさいます。

こうしてイエスさまは、まことにすべてを、愛と、赦しと、恵みと、命によって支配する、わたしたちの「柔和な王」となられたのです。

<柔和な王の支配の下で>

この「柔和な王」であるイエスさまが、ご自分のご支配の中にある者たちに向かって、おっしゃったのです。

「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。」

イエスさまに従うわたしたちは、イエスさまの御声を聞いているわたしたちは、この柔和なイエスさまのご支配の下にます。

イエスさまの柔和さの中で、生かされています。

この柔和な王の前で。このイエスさまの愛と赦しの中で。どうしてわたしたちが、怒りに任せて誰かと敵対したり、相手を赦さずにいたり、滅ぼそうとしたり、力づくで自分の思いを貫こうとして良いのでしょうか。

どうして、この方の御前で、「柔和」な歩みを求めないでいられるのでしょうか。

<貧しさ、柔和、謙遜>

しかし、実際にわたしたちが、イエスさまのように「柔和」に歩むことは、とても困難なことです。不可能と言ってもよいくらいです。

わたしたちは「柔和な人々」になることができない。そんな優しさ、穏やかさ、忍耐強さは持ち合わせていない。そのことは、自分自身が一番よく知っています。

でも、ここでイエスさまがわたしたちに向かっておっしゃる「柔和」とは、わたしたちの人間としての資質から来るものではないし、心掛けや努力などで、そうなりたいと思っ
てなれるものではないのです。

わたしたちは、むしろそのような「柔和さ」を持っていない、貧しい者であることを、よく自覚する必要があるのです。

今日読まれた詩編 37:11 は、イエスさまが言われた「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ」という御言葉の、元になった箇所であると言われています。

こうありました。「貧しい人は地を継ぎ／豊かな平和に自らをゆだねるであろう。」

わたしたちが読んでいる新共同訳聖書は、「貧しい人は地を継ぎ」と訳していますが、以前の口語訳聖書では、「しかし柔和な者は国を継ぎ、／豊かな繁栄をたのしむことができる」となっていました。「貧しい人」を「柔和な者」と訳していたのです。

同じ言葉を、貧しいとも、柔和とも、訳すことができるのです。

「貧しい」あるいは「柔和」と訳されているこのヘブライ語（アーナウ）は、本来は、卑しい、抑圧された、奴隷状態にあることを意味する言葉だそうです。

そのことから、神さまの御前で、自分が何も持たない、貧しい僕であることを自覚している人、という意味で、この言葉は「貧しい人」と訳されます。

それは、「心の貧しい人は、幸いである」と言われていた時の、「心の貧しさ」と似ています。自分が、神さまから、物乞いをして、すべてをいただかないと生きられない、惨めな、貧しい人である、ということです。

…そのような「貧しい人」は、自分の生活を、人生を、全面的に神さまに依り頼まなければなりません。奴隷状態の者は、神さまに自分をすべてお委ねするしか、生きる術がありません。

でも、だからこそ、「貧しい人は」、謙遜になります。へりくだり、神さまの御前に自分を低くし、主なる神さまにこそ、すべての望みを置くようになります。

そういう者のことを指して、この言葉はまた、「柔和な者」と訳されるのでしょうか。

…つまり、わたしたちは、まず神さまの御前で、徹底的に「貧しい人」なのです。

わたしたちは、神さまに依り頼まなければ生きられない者なのです。神さまに何もかも委ねなければ、正しく歩むことができないのです。力など、何もないのです。

それなのに、神さまに依り頼まず、すべてをお委ねしようとしないうち。わたしたちは、何とか自分のために力を手に入れ、自分で自分を守ろうとして、心を頑なに立て、傲慢になって、攻撃的になったり、人を排除したりするのです。

でも今や、わたしたちのことは、イエスさまが守ってくださいます。

愛と恵みと命によって、天も地も支配しておられる「柔和な王」が、まことにわたしたちの王となってくださり、いつでも、どこでも共にいて、わたしたちを守り、支え、導いてくださいます。

だから、貧しいわたしたちは、イエスさまの御前にへりくだり、イエスさまの御力に依り頼み、イエスさまに自らをお委ねすることによってこそ。イエスさまに希望を置くことによってこそ。柔和に生きることへと、踏み出していくことが出来るのです。

<イエスさまと共に>

柔和さは、貧しい自分でありながら、神さまに力を与えられていること、神さまに守られていることを確信する信仰によって、可能となる生き方です。イエスさまと共にあってこそ、可能となる生き方です。

イエスさまは、マタイ 11:29~30 で言われました。「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

軛とは、木の杵を二頭の牛の首に一緒に架けて、歩みを揃わせるためのものです。

わたしたちは、イエスさまの軛を負って、イエスさまと揃って共に歩みなさい、と言われていました。イエスさまの柔和で謙遜な歩みに歩を合わせて、イエスさまに導かれて、共に歩みなさい、と言われていました。

そうすれば、わたしたちは、安らぎを得られるのだと。

…軛を負うこと、柔和に謙遜に生きることは、確かに、この世では不自由で、重荷を負うことのようにも思えます。

しかし、わたしたちはむしろ、その軛を負って歩むことで、イエスさまの愛と恵みの深さを、その柔和さを、ますます深く身をもって味わい知ることが出来る。

そうして、イエスさまの柔和さに学びながら、イエスさまと共にある、まことの安らぎを得ながら、前へと進んでいくことが出来るのです。

<終わりの日の希望>

…今、この「柔和な王」であるイエスさまのご支配は、まだこの地上で、この目で、見ることは出来ません。

しかし、その十字架と復活によって、イエスさまのご支配は、もうすでにこの地に打ち立てられ、救いを信じたわたしたちにおいて始まっており、やがて来る終わりの日の完成に向かって、進んでいるのです。

いつか、イエスさまが再び来られる日には、この方のご支配が、すべての者の目に明らかになります。神さまの愛と恵みと命のご支配が、天も地も、わたしたちも、すべて覆ってくださる日がやって来ます。

この確かな希望が与えられているからこそ、わたしたちは、柔和な人々が、イエスさまと共に、地を受け継ぐようになること。神さまのすべての恵みを、受け継ぐ日が来ることを信じて、歩いていくことが出来るのです。

確かに世の中は、未だ、暴力が支配しているかのようです。自分の思いを貫こうとする者が、暴力を振るい、人を傷つけ、奪い取り、好き勝手に振舞っている。弱い、優しい、柔和な者が、奪われ、傷つけられ、損をしている。そんな現実が目に見えます。

でも、柔和であることは、この世において、ただ暴力に屈すること、泣きを見ること、損をすること、なのではありません。

むしろ柔和であることは、この世において、イエスさまのご支配を信じることであり、神さまに希望を置くことであり、忍耐する強さを与えられることであり、隣人を愛して生きていく、ということなのです。

「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ」。

わたしたちは、柔和な王イエスさまのご支配の中で、お守りの中で、確かな約束の中で、イエスさまと共に、柔らかに、穏やかに、忍耐と、希望とをもって、まことに幸いな道を歩ませていただくことが出来るのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

イエスさまの十字架と復活によって、わたしたちはこの世の支配ではなく、イエスさまの愛と赦しと命のご支配の中に置かれていることを、信じます。

そして、罪人であるわたしたちが、イエスさまによって神の子とされ、イエスさまと共に、地を受け継ぐということを、確かな約束として、希望として、与えられています。

どうか、罪深い、貧しいわたしたちが、柔和なわたしたちの王であるイエスさまの許で、イエスさまの軛を負って、イエスさまに従い、依り頼み、すべてをお委ねすることで、柔和に、謙遜に、忍耐深く、歩いていくことが出来ますように。

そして、イエスさまと共にある安らぎを、幸いを、生きることが出来ますように。

このお祈りをイエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 3 7 7 「神はわが砦」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

天の父なる神さま

今ここに、柔和な王であるイエスさまのご支配の下に、罪を赦され、招かれ、集められたわたしたちが、共に礼拝をささげることが出来ます恵みを、心から感謝いたします。

どうか、この新たな一週間も、わたしたちがイエスさまと共にあって、その愛のご支配の中にあつて、柔和に、謙遜に、歩む者となることが出来ますように。

また、わたしたちの中には、この礼拝を覚えながらも、ケガによって、体の弱さによって、また様々な事情によって、共に集うことができない兄弟姉妹を覚えます。どうか、そのお一人お一人も、共に御言葉と祝福に豊かに与り、イエスさまの安らぎと幸いの中に置かれて、柔和に、感謝と喜びの内に、日々を歩むことが出来ますように。

またここに、あなたの御言葉を求め、救いを求めて集っている、求道者の方々を覚えます。どうか、イエスさまとのまことの出合いを与えられ、救いの恵みを信じ、イエスさまと共に歩む幸いに与ることが出来ますように、聖霊の導きをお与えください。

神さま、この世界をどうぞ顧みてください。この世で特に、暴力や、貧困、あらゆる困難の中にある、小さい者、弱さの中にある者、老いた者たちを、御手をもって助け、守り、お救い下さい。

世の人々が、国々が、力づくで、自分の思いを貫こうとする歩みをしています。どうか、人々の罪、わたしたちの罪を、お赦してください。

そして、へりくだって、御自分の命を与え、わたしたちを愛し、生かして下さった、御子イエスさまの十字架と復活にあつて、互いに赦し合い、愛し合い、恵みを分かち合つて歩む世界とならせてください。

そのために、まずイエスさまの救いに与ったわたしたちが、イエスさまの軛を負わせていただいて、柔和で、謙遜な歩みをもって、世に踏み出していくことが出来ますように。

この群れをはじめ、世に立てられた、イエスさまの体なるすべての教会が、神さまの愛を、イエスさまの救いを、聖霊なる神さまによって、大胆に、力強く、宣べ伝え、証しすることが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 2 9 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らしあなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン